

宮崎国際大学・  
宮崎学園短期大学

公開  
講座

# 宮崎で種をまく国際支援

## 「娘は戦場で生まれた」(原題 FOR SAMA)

# 上映会&トークセッション

死者数十万人。泥沼化する戦地シリアで、  
何が起きているのか——?

史上もっともパワフルで  
重要なドキュメンタリーの一つ——マイケル・ムーア(映画監督)

真実を目撃せよ、  
彼女こそ新しいヒーローだ。——Little White Lies



2023年  
7月29日(土)  
13:00~16:00  
11 宮崎国際大学  
国際交流センター  
定員 150名程度  
参加費 無料



講師  
山崎やよい



講師  
竹石奈々子



コメンテーター  
前原未季



参加申し込みはQRコードから お電話・メールでも  
申し込み可能です。

お問い合わせ：宮崎国際大学 地域連携センター  
outreach@sky.miyazaki-mic.ac.jp TEL: 0985-85-5931



主催：



宮崎国際大学  
Miyazaki International University



宮崎学園短期大学

# SDGsでは

「16:平和と公正をすべての人に」が掲げられ、「あらゆる場所で、あらゆる形の暴力による死を大きく減らす」ことが目標の一つとなっています。

また、2016年には、国連総会にて「平和への権利宣言」が採択されました。これには「全世界の国民が、平和のうち生存する権利を有する」という日本国憲法の前文の趣旨も生かされています。しかし、未だ戦争や武力紛争が絶えることはありません。長年紛争の続くシリアもその一つです。2022年のトルコ・シリア大地震の際には、紛争のため、国際支援の届きにくい地域が発生しました。シリア北西部の住民は、今でもきびしい生活を強いられています。

このような中、宮崎で支援の種まきが始まりました。シリア育ち宮崎在住の竹石奈々子さんを中心に、支援の輪が広がり、1ヶ月ほどで150万円が集まりました。これを現地に届け、厳しい寒さの続いていた被災地で野宿をしていた人々のために、みなし仮設住宅を提供するなど、たくさんの家族を支援することができました。支援に関わった宮崎の人々は、シリアにご縁ができたと感じています。これから、どのような繋がりや支援が可能でしょうか？

この上映会とトークセッションでは、宮崎から支援を続ける竹石奈々子さんと、長年シリアを支援してきた考古学者の山崎やよいさんを講師にお迎えし、戦争によって震災支援が困難になるのは何故なのか、また、難民、特に女性たちが置かれている窮状について学びます。また、コメンテーターに、宮崎を拠点に南米のフェアトレードに携わる、前原未季さんをお招きし、学生とともに、宮崎を拠点とする国際協力・支援の可能性について語り合います。



講師  
山崎やよい

1958年、京都府宮津市生まれ。考古学者。1989年よりシリア第2の都市アレッポをベースに活動を続ける。テル・アバル、テル・コムロック発掘調査、テル・ハディヤ発掘調査、テル・ベイダル発掘調査、アインダーラ神殿遺跡修復事業などに参加。その他、JICA（国際協力機構）の専門家として、ヨルダンにて博物館教育活動にも関与。シリア国立アレッポ大学考古学科講師の経験も持つ。テレビ取材のコーディネーションや通訳としても活躍中。シリア紛争で難民となり生活基盤を失った女性たちに「針と糸」で収入の道を開いてほしいと願いを込めたプロジェクト「イブラ・ワ・ハイト」発起人。



講師  
竹石奈々子

考古学者の母の仕事で、3歳から18歳までをシリアのアレッポで現地学校に通い暮らす。ヨルダン大学を卒業後、日本に帰国。サーフィン好きの夫と7年前に宮崎に移住。二児の子育てをしながら、日本で貴重な、アラビア語、日本語、英語のトライリンガルとして、通訳の仕事をしている。シリアは第二の故郷、今も大切な人々が暮らしている。シリアで暮らす女性たちの支援として、編み物で収入の道を開いて欲しいと願い、「ウンマハート」を立ち上げる。シリア地震後は募金活動に奔走し、国際支援の届きにくいエリアへの支援を続けている。



コメンテーター  
前原未季

宮崎公立大学人文学部国際文化学科国際法専攻卒業後、NPO宮崎国際ボランティアセンターが行うJICAのプロジェクトのインド現地駐在員となる。その後、ペルーでの考古学博物館スタッフやテレビ番組制作などを経て、現在はエクアドルのフェアトレードチョコレートやハーブティーの販売を行っている。シリア地震後は、ウンマハートの募金活動を支援。スペイン語、英語、日本語を話す。

